

平成27年度 定期作況報告

(8月20日)

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
中央農業試験場

水稻の部

水田農業G(岩見沢市)

I 気象概況

7月下旬:平均気温は平年より2.6℃高く、降水量は平年の156%、日照時間は平年の45%であり、高温、多雨、寡照に経過した。

8月上旬:平均気温は平年より0.6℃高く、降水量は平年の93%、日照時間は平年の87%であり、寡照に経過した。

8月中旬:平均気温は平年より1.0℃低く、降水量は平年の98%、日照時間は平年の84%であり、低温、寡照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より0.7℃高く、降水量は平年の110%、日照時間は平年の72%であり、多雨、寡照に経過した。

7月下旬～8月中旬気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	27.6	26.0	1.6	28.0	27.9	0.1	26.3	27.2	△ 0.9	27.3	27.0	0.3
最低気温(℃)	21.2	17.4	3.8	19.6	19.1	0.5	18.2	19.1	△ 0.9	19.7	18.5	1.2
平均気温(℃)	23.7	21.1	2.6	23.4	22.8	0.6	21.6	22.6	△ 1.0	22.9	22.2	0.7
降水量(mm)	52.5	33.7	18.8	41.0	44.1	△ 3.1	63.0	64.6	△ 1.6	156.5	142.4	14.1
日照時間(hr)	25.7	57.5	△ 31.8	50.6	57.9	△ 7.3	43.9	52.3	△ 8.4	120.2	167.7	△ 47.5

注) データは「アメダス岩見沢」を使用し、平年値は平成16～25年の10ヶ年平均値。

表中の気温は期間内の平均を示し、降水量と日照時間は期間内の積算値を示した。

II 作 況

5月20日 平年並

事由:播種は平年より2日早い4月16日に行った。播種直後の4月4半旬はやや低温に経過したため、出芽始までに日数を要し、播種後7日目に発芽揃となった。4月下旬から5月上旬にかけて高温、多照に経過したため、苗の生育は進み、遅れを取り戻した。移植は平年より2日早い5月19日に行った。

移植時における苗は、茎数は「きらら397」、「ななつぼし」ともに平年並であった。葉数は「きらら397」が2.9枚で平年より0.3枚少なく、「ななつぼし」が3.1枚で平年並であった。草丈はそれぞれ9.1cm、10.4cmで、平年比90%、100%と平年並から下回った。100本あたりの地上部乾物重はそれぞれ2.23g、2.55gで、平年比114%、123%であり、苗の充実度(地上部乾物重/草丈)はそれぞれ平年比126%、123%と平年を上回った。すなわち、苗は平年に比べ葉数は平年並からやや少なく、草丈は平年並からやや低く、乾物重および充実度は優った。

以上により、5月20日時点の作況は、平年並である。

6月20日 平年並

事由:5月下旬は高温、多照に経過したが、風の強い日が多かったため、移植から活着までの日数は平年並であった。6月上旬は低温、寡照に経過したものの、6月中旬は多照に経過したため、初期分げつの発生は平年並であった。

6月20日において、草丈は平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ107%、104%と平年並で、茎数はそれぞれ101%、112%と平年並からやや上回った。主稈葉数はそれぞれ平年より0.4枚ずつ少なかった。

以上により、6月20日時点の作況は、平年並である。

7月20日 平年並

事由:6月下旬から7月上旬にかけて低温に推移したため、幼穂形成期は「きらら397」、「ななつぼし」ともに平年並であったが、止葉始は「きらら397」が3日以上(7月20日時点で未達)、「ななつぼし」が2日遅かった。

7月20日において、草丈は平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ99%、97%と平年並であった。茎数はそれぞれ107%、107%と平年並で、ともに最高分げつ期を過ぎていた。主稈葉数はそれぞれ平年より0.2枚ずつ少なかった。すなわち、生育はやや遅れているが、生育量はほぼ平年並であった。

以上により、7月20日時点の作況は、平年並である。

8月20日 平年並

事由:7月下旬は高温に推移したため、出穂期は平年対比で「きらら397」が1日、「ななつぼし」が2日遅く、生育の遅れをやや取り戻した。稈長は、平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ112%、106%とやや長く、穂長は「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ101%、98%と平年並であった。穂数は、「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ100%、105%と、平年並からやや多かった。

以上により、8月20日時点の作況は、平年並である。

項目	品種名・ 苗種 年次	きらら397 中苗			ななつぼし 中苗			ゆめびりか 中苗(参考)			そらゆき 中苗(参考)
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年 (前6ヶ年)	比較	本年	
播種期	(月.日)	4.16	4.18	△ 2	4.16	4.18	△ 2	4.16	4.18	△ 2	4.16
移植期	(月.日)	5.19	5.21	△ 2	5.19	5.21	△ 2	5.19	5.20	△ 1	5.19
幼穂形成期	(月.日)	7.06	7.06	0	7.02	7.02	0	7.02	7.03	△ 1	7.03
止葉始	(月.日)	7.21	7.18	3	7.15	7.13	2	7.17	7.15	2	7.17
出穂期	(月.日)	8.01	7.31	1	7.29	7.27	2	7.30	7.28	2	7.31
成熟期	(月.日)		9.20			9.14			9.16		
穂揃日数	(日)	6.0	5.8	0.2	7.0	6.2	0.8	7.0	6.7	0.3	6.0
登熟日数	(日)		51			49			50		
生育日数	(日)		155			149			151		
移植時地上部乾物重(g/100本)		2.23	1.96	0.27	2.55	2.07	0.48	2.32	2.16	0.16	2.64
草丈 (cm)	移植時	9.1	10.1	△ 1.0	10.4	10.4	0.0	10.4	10.5	△ 0.1	10.8
	6月20日	25.8	24.1	1.7	29.2	28.1	1.1	28.5	28.5	0.0	32.4
	7月20日	62.1	62.7	△ 0.6	69.3	71.3	△ 2.0	68.2	70.7	△ 2.5	68.6
茎数 (移植時:本/個体 その他:本/m ²)	移植時	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0
	6月20日	323	321	2	370	331	39	338	355	△ 17	300
	7月20日	860	800	60	858	802	56	953	857	96	845
主稈 葉数 (枚)	移植時	2.9	3.2	△ 0.3	3.1	3.1	0.0	3.0	3.2	△ 0.2	2.7
	6月20日	6.7	7.1	△ 0.4	6.7	7.1	△ 0.4	6.8	7.2	△ 0.4	6.2
	7月20日	10.7	10.9	△ 0.2	10.0	10.2	△ 0.2	10.6	10.5	0.1	9.7
	止葉	11.0	11.1	△ 0.1	10.0	10.3	△ 0.3	10.7	10.6	0.1	9.8
稈長	(cm)	72.4	64.9	7.5	73.9	69.4	4.5	75.2	68.2	7.0	82.7
穂長	(cm)	16.8	16.7	0.1	16.1	16.5	△ 0.4	16.4	17.0	△ 0.6	16.8
穂数	(本/m ²)	695	695	0	768	731	37	803	760	43	738
一穂粒数	(粒)		47.6			52.1			44.0		
m ² 当粒数	(百粒)		331			381			334		
稔実歩合	(%)		91.9			89.7			90.4		
登熟歩合	(%)		80.5			80.3			77.7		
籾摺歩合	(%)		76.7			76.1			74.5		
屑米歩合	(%)		6.4			6.6			8.3		
千粒重	(g)		23.2			22.4			22.9		
わら重	(kg/a)		60.4			66.2			65.3		
精粒重	(kg/a)		76.7			78.3			74.4		
精玄米重	(kg/a)		58.8			59.6			55.4		
収量平年対比	(%)		100			100			100		-
検査等級			1下			1下			2上		

注1)「きらら397」の平年値は前7ヶ年中、平成26年(最豊)、21年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2)「ななつぼし」の平年値は前7ヶ年中、平成23年(最豊)、21年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注3)平成21年より「ゆめびりか」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注4)平成26年より「そらゆき」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注5)耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=130cc/箱

移植方法 : 手植え

注6)刈り取り面積は一区3.60m²。精粒重、精玄米重は水分15%換算値。使用した篩目は1.90mm。

畑作の部

作物G(長沼町)

I 気象概況

7月下旬:平均気温は平年より2.3℃高く、降水量は平年の78%、日照時間は平年の55%であり、高温、少雨、寡照に経過した。

8月上旬:平均気温は平年より0.1℃高く、降水量は平年の58%、日照時間は平年の89%であり、少雨、寡照に経過した。

8月中旬:平均気温は平年より1.2℃低く、降水量は平年の71%、日照時間は平年の125%であり、低温、少雨、多照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より0.5℃高く、降水量は平年の69%、日照時間は平年の88%であり、少雨、寡照に経過した。

7月下旬～8月中旬気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	26.6	25.5	1.1	26.8	27.4	△0.6	25.4	26.9	△1.5	26.3	26.6	△0.3
最低気温(℃)	20.3	16.7	3.6	18.7	18.6	0.1	17.6	18.5	△0.9	18.9	17.9	1.0
平均気温(℃)	22.8	20.5	2.3	22.4	22.3	0.1	20.9	22.1	△1.2	22.1	21.6	0.5
降水量(mm)	28.5	36.5	△8.0	21.5	37.0	△15.5	38.5	54.0	△15.5	88.5	127.5	△39.0
降水日数(日)	4.0	2.1	1.9	3.0	2.7	0.3	6.0	2.4	3.6	13.0	7.2	5.8
日照時間(hr)	27.1	49.3	△22.2	45.1	50.7	△5.6	55.0	44.1	10.9	127.2	144.1	△16.9

注1) 気象データはマメダス中央農試本場。欠測値および明らかな異常値はアメダス長沼で補正。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) 降水日数は、24時間降水量が0.5mm以上をカウント

注5) △は減を示す。

Ⅱ 作 況

1. 秋まき小麦(平成26年播種)

平成26年9月20日作況：やや不良

事由：9月4半旬以降の降雨のため、9月20日現在で播種作業が終了していない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

平成26年10月20日作況：平年並

事由：播種期は平年より4日遅い9月22日であった。播種後、気温は平年並に推移し、出芽期は平年より3日遅い9月29日であったが、出芽は良好であった。10月上旬以降、低温に推移しているため10月20日現在で草丈は平年をやや下回るが、茎数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

平成27年5月20日作況：平年並

事由：越冬前の草丈は平年を下回ったが茎数は平年並であった。根雪終（本年は雪解けが早かったため融雪剤無散布）は平年より13日早い3月24日で、積雪期間は平年より13日短い108日であった。雪腐病による冬損程度は小さく、越冬後の茎数は平年を上回った。4月下旬以降、高温で推移し、草丈は長く、茎数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

平成27年6月20日作況：平年並

事由：出穂期は平年より7日早い5月30日であったが、6月上旬は低温、多雨で推移したため生育が停滞し、開花までは時間を要した。6月20日現在で草丈、茎数ともに平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

平成27年7月20日作況：平年並

事由：6月下旬から7月上旬にかけて平均気温が平年より低く経過した。成熟期は平年より3日早く、登熟期間は平年より4日長くなった。成熟期における稈長、穂長および穂数はいずれも平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

平成27年8月20日作況：平年並

事由：登熟期間が長くなったため千粒重は平年を上回ったが、子実重と容積重は平年並であった。

以上により、現在の作況は平年並である。

品種名 項目 \ 年次		きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(H26.月.日)	9.22	9.18	4
出芽期	(H26.月.日)	9.29	9.26	3
出穂期	(H27.月.日)	5.30	6.6	△ 7
成熟期	(H27.月.日)	7.15	7.18	△ 3
冬損程度	(0:無～5:甚)	0.3	1.1	△ 0.8
草丈 (cm)	H26.10.20	16.2	18.2	△ 2.0
	H27.5.20	52.9	44.3	8.6
	H27.6.20	94.0	97.8	△ 3.8
茎数 (本/m ²)	H26.10.20	573	590	△ 17
	越冬前(11月)	1560	1179	381
	越冬後(3月)	2090	1684	406
	H27.5.20	1191	1275	△ 84
	H27.6.20	773	735	38
成熟期に おける	稈長 (cm)	85.5	88.6	△ 3.1
	穂長 (cm)	8.5	8.7	△ 0.2
	穂数 (本/m ²)	674	680	△ 6
倒伏程度	(0:無～5:甚)	0.0	0.4	△ 0.4
子実重	(kg/10a)	710	727	△ 17
容積重	(g/l)	811	810	1
千粒重	(g)	41.6	38.4	3.2
品質	(等級)		2等	
子実重平年対比 (%)		98	100	△ 2

注1) 平年値: 前7か年中、平成25年(最凶)、平成21年(最豊)を除く5か年平均(収穫年度)

注2) △は平年より早、短、少を表す(以下同じ)。

注3) 倒伏程度: 成熟期における倒伏程度。

注4) 容積重はブラウエル穀粒計により測定した値。

2. 春まき小麦

5月20日作況:やや良

事由:融雪が早かったため、融雪剤は使用しなかった。根雪終(融雪剤無散布)は、平年より13日早い3月24日であった。播種期は平年より4日早い4月13日であり、その後も気温が平年より高く推移したため、出芽期は平年より5日早かった。出芽期後も概ね好天に恵まれ、生育が進み、現在のところ、草丈、茎数とも平年を上回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

6月20日作況:平年並

事由:6月上旬の気温が低く経過したものの、生育は平年より早く進捗している。出穂期は平年より3日早く、草丈が平年より高く、茎数は分けつの無効化が進み平年より少ない。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況:平年並

事由:稈長は平年よりやや長く、穂長はやや短く、穂数は平年よりやや少ない。前節以降、気温が平年並から低く経過しているため、登熟期間は平年より長くなることが予想される。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況:やや良

事由:成熟期は平年並から1日早かったが、出穂期から成熟期までの日数は平年より2~3日長かった。穂数は平年よりやや少なかったものの、千粒重が平年より重く、子実重は「春よ恋」が平年比103%、「はるきらり」は平年比116%であった。リットル重は両品種とも平年よりやや重かった。倒伏は認められなかった。

以上により、現在の作況はやや良である。

項目 \ 年次	品種名			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	4.13	4.17	△ 4	4.13	4.17	△ 4
出芽期 (月.日)	4.26	5.01	△ 5	4.27	5.02	△ 5
出穂期 (月.日)	6.15	6.18	△ 3	6.13	6.16	△ 3
成熟期 (月.日)	7.28	7.29	△ 1	7.31	7.31	0
草丈 (cm)	5月20日 25.5	19.6	5.9	28.2	22.2	6.0
	6月20日 94	81	13	98	80	18
茎数 (本/m ²)	5月20日 723	595	128	691	549	142
	6月20日 568	760	△ 192	537	731	△ 194
7月20日 稈長 (cm)	95	92	3	95	90	5
または 成熟期 穂長 (cm)	8.0	8.5	△ 0.5	7.4	7.7	△ 0.3
の 穂数 (本/m ²)	469	492	△ 23	463	485	△ 22
子実重 (kg/10a)	468	456	12	523	449	74
千粒重 (g)	41.0	38.8	2.2	46.5	42.1	4.4
リットル重 (g)	819	796	23	812	799	13
品質 (等級)		2等			2等	
子実重平年対比 (%)	103	100	3	116	100	16

注) 平年値は前7カ年中、平成23年(最凶)、平成24年(最豊)を除く5カ年平均。

リットル重は1リットル升による測定。

3. 大豆

6月20日 やや不良

事由：播種期は平年より1日遅い5月22日で、出芽期は平年より1～2日遅かった。出芽前後の6月上旬は気温が低く、降水量が極めて多かったため、生育が停滞し、両品種の主茎長は平年より短く、主茎節数はやや少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

7月20日 やや不良

事由：「トヨムスメ」の開花期は、平年より1日遅かった。6月下旬～7月上旬の気温が低く推移したため、主茎長は平年より短く、主茎節数および分枝数は平年よりやや少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

8月20日 平年並

事由：「スズマル」の開花期は平年より3日遅かった。両品種とも主茎長は平年より短い、「トヨムスメ」は主茎節数、分枝数および着莢数が平年並であり、「スズマル」は主茎節数と分枝数が平年比よりやや少なく、着莢数は平年より多い。

以上により、現在の作況は平年並である。

品種名		トヨムスメ			スズマル		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
項目	年次						
播種期	(月.日)	5.22	5.21	1	5.22	5.21	1
出芽期	(月.日)	6.3	6.1	2	6.2	6.1	1
開花期	(月.日)	7.17	7.16	1	7.26	7.23	3
成熟期	(月.日)		9.28			9.30	
主茎長 (cm)	6月20日	7.7	11.7	△ 4.0	6.1	8.8	△ 2.7
	7月20日	32.7	49.8	△ 17.1	24.0	39.9	△ 15.9
	8月20日	43.4	57.9	△ 14.5	48.9	67.3	△ 18.4
	9月20日		58.0			67.7	
	成熟期		57.1			65.2	
主茎節数 (節)	6月20日	2.6	3.2	△ 0.6	2.6	3.5	△ 0.9
	7月20日	9.2	9.7	△ 0.5	10.2	11.3	△ 1.1
	8月20日	9.9	10.1	△ 0.2	13.0	14.3	△ 1.3
	9月20日		10.1			14.1	
	成熟期		10.2			14.0	
分枝数 (本/株)	7月20日	5.6	6.3	△ 0.7	7.1	8.1	△ 1.0
	8月20日	6.8	6.8	0.0	10.5	11.3	△ 0.8
	9月20日		6.7			10.7	
	成熟期		6.3			10.1	
着莢数 (莢/株)	8月20日	76.2	73.6	2.6	171.3	147.4	24.0
	9月20日		67.5			128.4	
	成熟期		66.7			123.3	
一莢内粒数		1.84			2.46		
子実重 (kg/10a)		390			347		
百粒重 (g)		39.5			15.0		
屑粒率 (%)		2.0			1.7		
品質 (等級)		3中			2中		
子実重平年対比 (%)			100			100	

注) 平年値は前7カ年中、平成21年(最凶)、26年(最豊)を除く5カ年平均。

4. 小豆

6月20日作況：平年並

事由：播種期は平年より1日遅い5月26日であったが、6月上旬が低温で推移したことと、豪雨により地表面がクラスト化したため出芽期は平年より3日遅い6月15日となった。6月20日現在で、主茎長、主茎節数ともに平年を下回っているが問題となる生育の遅れではない。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況：平年並

事由：6月下旬から7月上旬にかけて平均気温は低く推移し、また、7月上旬から中旬にかけて干ばつ傾向で経過した。7月20日現在で主茎長は平年より短い、主茎節数は平年並、分枝数が平年より多い。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況：やや良

事由：開花期は平年より8日遅い7月30日であった。7月下旬の平均気温が高く推移したため急激に生育が進み、8月20日現在で主茎長は平年より22.9cm長く、主茎節数、分枝数および着莢数のいずれも平年を上回っている。なお8月6日の降雨により倒伏した。また、莢の伸長程度から成熟期は平年より遅れることが予想される。

以上により、現在の作況はやや良である。

品種名		エリモシヨウズ		
		本年	平年	比較
項目	年次			
播種期	(月.日)	5.26	5.25	1
出芽期	(月.日)	6.15	6.12	3
開花期	(月.日)	7.30	7.22	8
成熟期	(月.日)		9.04	
主茎長 (cm)	6月20日	2.8	3.4	△ 0.6
	7月20日	18.3	24.1	△ 5.8
	8月20日	83.3	60.4	22.9
	成熟期		60.6	
主茎節数 (節)	6月20日	1.1	1.4	△ 0.3
	7月20日	9.4	9.4	0.0
	8月20日	15.2	13.7	1.5
	成熟期		13.7	
分枝数 (本/株)	7月20日	4.6	3.6	1.0
	8月20日	5.3	3.8	1.5
	成熟期		3.8	
着莢数 (莢/株)	8月20日	79.5	55.1	24.4
	成熟期		52.5	
一莢内粒数			5.77	
子実重	(kg/10a)		290	
百粒重	(g)		12.4	
屑粒率	(%)		3.1	
品質	(等級)		3下	—
子実重平年対比 (%)			100	

注) 平年値は前7カ年中、平成20年(最豊)、平成25年(最凶)を除く5カ年平均。

5. ばれいしょ

5月20日作況：平年並

事由：本年の根雪終は平年より13日早い3月24日（本年は雪解けが早く進んだため融雪剤無散布）で、植付期はほぼ平年並の4月27日であった。4月下旬以降、気温は高く推移し、5月20日現在で一部萌芽は始まっているものの、萌芽期には至っていない。以上により、現在の作況は平年並である。

6月20日作況：やや良

事由：萌芽期は平年より1日早い5月21日であった。6月上旬は低温、多雨で推移したが生育は順調で、開花始は平年より1日早い6月20日であった。6月20日現在で茎数はやや少ないものの茎長は平年を上回る。以上により、現在の作況はやや良である。

7月20日作況：平年並

事由：6月下旬から7月上旬にかけて平均気温は低く、また、7月上旬から中旬にかけては干ばつ傾向で推移した。7月20日現在で茎数は平年並であり、茎長が平年より短い。7月中旬より茎葉の黄化が始まっており、早期枯凋による塊茎肥大期間の短縮が懸念される。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況：やや不良

事由：枯凋期は平年より5日早い8月15日であった。株あたりの上いも数は平年より多かったが、塊茎肥大期間が短かったため上いも平均一個重は軽かった。上いも重は平年並であったが、中以上いも重は平年の89%と低収であった。でん粉価は平年よりやや低かった。

以上により、本年の作況はやや不良である。

項目 \ 年次		品種名		
		男爵薯		
		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	4.27	4.28	△ 1
萌芽期	(月.日)	5.21	5.22	△ 1
開花始	(月.日)	6.20	6.21	△ 1
枯凋期	(月.日)	8.15	8.20	△ 5
茎長	6月20日	40	35	5
(cm)	7月20日	41	47	△ 6
茎数	6月20日	4.3	4.9	△ 0.6
(本/株)	7月20日	4.7	4.5	0.2
8月20日における				
上いも数	(個/株)	-	11.5	-
上いも平均一個重(g)		-	92	-
上いも重	(kg/10a)	-	4635	-
でん粉価	(%)	-	15.6	-
枯凋期における				
上いも数	(個/株)	13.9	11.8	2.1
上いも平均一個重(g)		75	91	△ 16
上いも重	(kg/10a)	4610	4711	△ 101
中以上いも重(kg/10a)		3546	3995	△ 449
でん粉価	(%)	14.3	15.5	△ 1.2
上いも重平年対比 (%)		98	100	△ 2
中以上いも重 "	(%)	89	100	△ 11
でん粉価 "	(%)	92	100	△ 8

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、22年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は20g/個以上、「中以上いも」は60g/個以上。

本年は枯凋期が8月20日以前だったため、8月20日の調査は省略した。

耕種概要

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。

	一区面積 (m ²)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株本数	播種粒数 (粒/m ²)	株数 (株/10a)
秋まき小麦	9.6	4	ひまわり	20	条播	—	255	—
春まき小麦	7.2	4	ひまわり	30	条播	—	340	—
大豆	8.4	3	デントコーン	60	20	2	—	8,333
小豆	8.4	3	えん麦	60	20	2	—	8,333
ばれいしょ	10.8	3	デントコーン	75	30	—	—	4,444

	10a当たり施肥量(kg)				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥
秋まき小麦	4.0+6.0	12.5	5.0	—	—
春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0	—
大豆	1.5	11.0	7.5	3.5	—
小豆	4.0	19.2	9.2	2.4	—
ばれいしょ	10.4	16.4	13.6	—	—

中央農試作況報告について

当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。